

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100612		
法人名	(株)ケア・トラスト		
事業所名	ぐる〜ぷほ〜む笠市		
所在地	石川県金沢市笠市町11-19		
自己評価作成日	令和3年11月26日	評価結果市町村受理日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社emu
所在地	石川県金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506
訪問調査日	令和4年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の事業所の目標は、再構築です。再現し見直すことで新しさと古さの融合された新しいぐる〜むほ〜む笠市の再構築を目指すために、目標をフロアに掲示し、各フロア会議で説明し、取り組んでおります。また、コロナ渦で外出は制限しておりますが、リモートでの面会、事業所内でのおやつ作り、ご家族へプレゼントを作って送ったり、QRコードによる動画をお送りして、ご様子を知っていただくような取り組みを行っております。自分で出来る事はなるべく続けて頂く事をとても大事にしています。又、役割を持ち、季節感のある生活をする事で、楽しみのある生活が継続できるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度の事業所目標「再構築」をフロアに掲示し各フロアにて取り組まれている。開設時から就労しているベテラン職員から今年度入社した職員へ開設当初の施設の事や想いを各フロアで伝えてもらい、分かりやすく知ってもらうことで、スタッフ同士が初心の気持ちを大切に支援が行われている。関係性の構築ではコロナウイルス感染予防による面会や外出への制限がかかる中、インターネットの活用など新しいものを取り入れながら、関係性が希薄にならないように取り組まれている。各フロアでは職員同士が利用者の希望に添えるように、食事や行事などにテイクアウトやリモート観光などと試行錯誤し取入れ、楽しく過ごせるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「再構築」をフロア会議にて、共有し、各フロアに掲示していつでもみられるようにしている。また、フロア会議で事業所開設当時の振り返りを行い、初心を忘れずに、再構築に取り組むことを共有する。	9年目を迎え、事業所独自の理念は、初心を思い出し、今までしてきたことを振り返り、新しい事と融合する「再構築」とした。再構築に向けて積極的に取り組まれている。リーダーは開設当時から勤務している職員の為、現職員へ当時の状況を説明され、再構築について取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で外出・面会を制限している。その中で、地域のお店での買い物は職員が代行し、入居者様の食べたいものをお聞きして、地域の飲食店で、テイクアウトにより、地域との交流を大切にしている。また、写真や動画をみてもらったりベランダからの眺めを楽しんでもらっている。	コロナウイルス感染防止の為、外出・面会を制限している。外出や外食希望がご利用者からあげられるが、制限がある為、地域の芝寿しや釜揚げうどん、ピザなどのデリバリーを行い、できる限りの対応で、楽しんで頂けるように心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で外出・面会を制限しており、また地域の行事も中止になっており、今年度も運営推進会議等も行っていないが、民生委員を通して、地域の一人暮らしの高齢者の方へ事業所の紹介を行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、運営推進会議は今年度行わず、書面にて金沢市や民生委員、大手町地域包括支援センターの方にご報告し、意見を伺っていただいております。	新型コロナウイルス感染予防の為、外部の方を招いての運営推進会議は行わずに書面にて金沢市や民生委員、大手町地域包括支援センターの方に報告し意見を伺い、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を送らせていただいたり、コロナ禍での対応についてや疑問に思うことは金沢市や民生委員、地域包括支援センターに問い合わせをして、協力関係を築くように取り組んでおります。	新型コロナウイルス感染予防についての対応方法など不明な点があれば積極的に金沢市への問い合わせを行っている。地域密着型研修はZOOMを使用して法人として参加している。虐待、コロナ感染対策の研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しましては全職員に身体拘束をしないことを徹底するために玄関事務所には指針を掲示し、外部、内部の研修にも参加し、意識の向上に取り組んでおります。又身体拘束委員会があり、代表者も参加している。その他毎月開催している各フロア会議で確認し、話し合う機会を作り、共有しながら取り組んでいる。	身体拘束の研修は継続して参加している。非常勤職員で新たな職員の入社があった。その方は介護職の経験者である為、身体拘束、虐待についての定義の理解はあり、入社後身体拘束の研修にも参加して頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに定期的に施設内研修を実施しております。又外部研修にも参加しており、学べる機会をもてるように取り組んでおります。今年度、コロナ禍ということもあり、YouTube研修で行い、職員に報告書を提出してもらっております。その他毎月開催している各フロア会議で確認し、話し合う機会を作り、共有しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月より、成年後見制度を利用される入居者様が入居され、実際に接しながら学ぶ機会ができ、また社内研修で学ぶ機会を設けており、今後も必要に応じて、職員への理解が深められるように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に正確に契約等について説明し、同意のサインを頂いております。また制度の変更や契約書の内容に変更があった場合は、その都度ご説明させていただき必要に応じて署名など頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で外出・面会制限を行っており、運営推進会議についても、書面での報告になっております。その中で、電話でのお問い合わせやリモートによる面会を実施しており、その際に意見、要望をお聞きしております。またケアプランの更新を半年ごとに行っており、その際に担当者会議としてご要望やご意見をお聞きしております。	新型コロナウイルス感染予防の為、外出と面会規制を行っている。顔を見て会話が出来るようにインターネットを活用し、LINEビデオ通話などで、状況を報告し、意見、要望を伺う機会を設けている。 ご家族からは特に要望等はなく、状況を詳しく報告する事が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階毎月代表者や管理者も参加する、フロアミーティングを行い、又、個人面談も年2回実施し、意見や要望などないか聞いております。	フロアミーティングや個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を作っている。 年に2回の個人面談では社長も同席し、管理者と職員の3名で個人面談を行い意見を伺っている。 新型コロナウイルス感染が続いている事で不安の声が多くあげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員を対象とし面談を実施しており個別に話しをする機会をつくっています。また、仕事に対するやりがいを持って頂くため定期的に意見を聞く為に、話しやすい環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はユーチューブ研修を定期的で開催しており、外部研修にはコロナ対策がしっかりしているか確認したうえで、積極的に参加できるように調整しており、知識・技術の向上に繋がる機会をもうけております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市が主催する研修会への参加の機会を設け、他事業所の職員との交流する機会を設け、サービスの質の向上させるための取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族とお会いする機会を作り、困っていることや要望等お聞きしている。入居されてからも、不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。ご本人の思いを傾聴しながら、一人の時間も大切にしてお関係づくりに取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始の経緯をご家族様から傾聴し、ご家族様、入居者様それぞれから困りごとや要望などお聞きすることで、把握し支援するようにしている。また入居者様に何か変化があった場合はもちろん、普段から近況の様子をお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。また入居後も困ったことや要望などがないかお聞きし不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれのできること、やりたいこと、生活歴を大事にして、時には一緒に家事をしたり、役割を分担しながら暮らしを共にする時間を大切にして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも職員が対応するのではなく、ご本人とご家族様の絆を大切にしながら、ご家族様にも協力していただきながら入居者様の支援を行っている。また、受診介助はご家族様にもご協力頂いており、生活用品等も必要なものはご家族にご用意していただいたり、季節の変わり目には衣類や寝具の交換もご家族にご協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会・外出は制限させていただいている。その中で、リモートによる面会や窓越しでの面会は行っている。また、受診の介助をご家族にお願いして、面会の機会を作ったり、地域の飲食店のテイクアウトを利用したり、職員が動画で撮ったものを流したりしている。	新型コロナウイルス感染予防により面会、外出の制限を行う。その中で、病院受診が唯一できる外出になるのでも受診の介助を家族に依頼し、関係性を深める時間を作るように取り組んでいる。他にも、馴染みの場所を職員が動画で撮影し、テレビで流すなどと地域の馴染みの場所を見る機会を作れるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様と職員と一緒に家事を行ったりしながら入居者様同士の関わりが持てるように支援しています。又、入居者様同士のトラブルが起きないように座席を工夫したりそれぞれの能力に応じた役割を持っていたり、支えあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族様やご本人様とは必要に応じて相談や連絡など行える体制となっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中やご家族からの情報などにより入居者様が支援してほしいと思っていることを把握し、支援している。困難な場合でも入居者様の思いを傾聴し、ご納得いただけるように対応し、取り組んでおります。	ご利用者の思いは外出や外食についてが大多数を占めている。ご家族とも連絡を取り協力して、可能な限りで希望に添えるように心がけている。食事や衣類などはご家族との関係性を持つ機会としてご家族に相談や依頼をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様が過ごしやすい環境を作るために、生活歴や要望をしっかりと傾聴しサービスに取り入れるように支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	洗濯物をたたんで頂いたり、食事前に日付の確認をしてもらったり、それぞれの有する力に応じて役割分担しながら生活されている。また、居室での一人の時間も大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人で一人から二人の入居者様を担当しているが、担当以外の職員も日常生活における変化等を見逃さず、より良いケアに結びつけるために申し送りやミーティングを活用し、プランに反映させている。	基本的にはご利用者には担当職員が決められており、常に変化について観察されている。自分の担当のご利用者以外の方も変化には気を配っており、変化があれば申し送りやミーティングを行い、必要に応じてプランへ反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の普段の様子を把握し、共有するためにケア等の記録を個別に記載し、職員間で共有しております。また改善すべき点も共有し話し合いの場で検討しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一施設内の併設事業所と協力し、また別フロアとの連携により受診介助、通院介助、その他レクリエーション等で柔軟かつ多様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で面会・外出は制限させていただいていますが、リモートでの面会や電話での応答の回数を増やし、また地域の飲食店からのテイクアウトや職員がお買い物の代行をさせていただいております。地域資源の活用は不十分ですが、今後感染症が落ち着いたら個々の行きたい場所へ外出できる機会を増やしてゆきたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診による受診の入居者様が多いが、ご本人やご家族様の希望により、個々のかかりつけ医を利用されている方もおられます。定期受診に関しては、ご家族と協力しながら受診介助を行っており、受診シートを活用し情報の共有をはかり適切にうけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染予防を行った上でかかりつけ医のもとで受診できるように行っている。 内科・外科の知識のある主治医へ連絡し、状況報告を行い、必要に応じて往診をして頂いている。 歯科医の往診も必要に応じて依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、看護師が勤務している時は、バイタル、顔色・表情、食欲、排泄状況や皮膚状態等の変化を報告・相談し、適切な医療連携ができるように、対応しております。夜間等の看護師不在時にもオンコール対応しており、急な変化にも対応できるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに入居者様の情報をお伝えし、適切に対応ができるように努めております。また入院後も医師、看護師、相談員、ご家族様と連携を取り情報交換し、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態に変化がみられた場合、ご家族様やかかりつけ医にすぐ報告しております。そのうえで医師の診断により終末期となった場合は、ご家族様と今後の対応について相談させていただき、状態・方針を共有し、チームケアにより希望にそった形での支援を心がけております。	状態の変化が見られた際にはご家族や主治医、看護師にすぐに連絡している。 ご家族へもすぐに連絡をし、必要に応じて主治医から直接説明をして頂いている。 終末期の状態や方針を共有し、チームケアにより、希望にそった形での看取り支援を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは作成してありますが、全職員が対応できるように、毎年研修を実施しております。その他緊急連絡網も整備されており、看護師や管理者に連絡が取れるようになっております。また同一建物の他事業所とも連携し、多人数で対応するようにしております。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡網や対応についてわかりやすく、簡潔に記載してあるものを各フロアに掲示してあります。また普段から緊急時に対応できるようにマニュアルを基にした研修会を実施しております。	ミーティング後の時間を活用し、緊急事態時の対応をマニュアルに沿って確認を行っている。 新型コロナウイルス感染予防としてマスク着用、嘔吐などがあつた際にはフェイスシールドを装備できるように完備している。県外から入居されたご利用者のご家族には2週間待機してからの面会などと注意を払っている。 職員の増加により見守り体制が強化されたことにより、しっかりと感染予防が出来ている状態である。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	かかりつけ医の先生とは往診時以外にも、入居者様の変化に伴い相談し、指示を仰いでいる。また協力医療機関や協力医療施設とは、病气・入院・重度化した入居者様の相談はさせてもらっている。	ご利用者に変化が見られた時には受診歴のある病院のかかりつけ医へ連絡をこまめに行っている。状況を伝えその時の状態により受診や往診など対応して頂いている。 居宅介護支援事業所を経由して、他事業所の状況確認や連携を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロアに職員を配置しています。また緊急対応が必要になった場合は他階からの応援協力を得ることで、看護師、医師、管理者等と連絡できるようになっております。	夜間は各フロアに職員の配置を行っており、細かな変化でも管理者に状態や変化があった箇所の写真を撮り、分かりやすく報告している。管理者や施設看護師が確認し、かかりつけ医への報告を行い、素早く対応できるようになっている。緊急時には各フロア夜勤者が連携し、対応できる体制となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、今年度はコロナ対策として、7月に駅西消防署から(高齢者の生活実態を踏まえた火災検証実験)というビデオをお借りして、勉強会を行い、11月には夜間を想定した職員の動きについて確認した訓練と避難場所に指定されている明成小学校まで実際に歩いてかかる時間や道路状況等確認いたしました。また、災害が発生した場合のマニュアルも作成しております。	明成小学校が避難場所となっている。避難訓練では実際の避難場所まで歩いて確認を行っている。職員には近いがご利用者が歩く5分以上かかるため、歩いて避難出来る人は少ないことが分かった。車いすなどを活用しての移動など避難方法及び避難場所など検討している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難訓練は年2回、今年度は職員のみで対応させていただいております。また、災害が発生した場合のマニュアルも作成しております。備蓄品については、食糧は確保してあるがまだまだ不十分のところもあり、準備中である。今後さらに定期点検をしながら不足品の整備を行っていきたい。	備蓄必要数の準備や管理体制の強化を行っている。避難訓練などはできる限りで実施している。現実的な課題に対して意見を出し合い、マニュアルの改訂も行っている。マスク2900枚。その他にも紙皿や割りばしなどの備品の準備を行っている。	備蓄の確保はできているが、消費期限のある備蓄の管理方法や避難時にすぐに持ち出すことのできるように最低数をこの保管するかなどのマニュアル化と職員への周知を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の年間研修に組み込み、また外部の研修にも参加できるようにすることで対応できるように取り組んでいる。また、それぞれの居室への入室や入浴、排泄時の支援には特に、ご本人や周囲の方への配慮もしつつ声かけを行うように対応している。	社内のみではなく外部研修へも参加している。より広い視野から学べるのではないかと考え、新型コロナウイルス感染予防を徹底した上で研修に参加出来るように対応している。排泄時の支援では本人だけでなく周囲の方への配慮して、声掛けを心がけている。声掛け際は声の大きさなども配慮されている。	1人ひとりの尊厳とプライバシーを損ねない声掛けを、周囲の方へも配慮して行えるよう、研修の受講やミーティングを継続して、支援の再構築に活かして行く事を期待する。
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身の思いを尊重するために自身で選択できることは自身で選択できるように希望を伺いながら、支援を行っております。また、意思表示の困難な方には表情や生活歴、ご家族からの情報をもとに個々のニーズに応じた支援を心掛けている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は基本、フロアにて過ごしていただいておりますが、傾眠が強かったり、お昼寝はご利用者様の意向をお聞きしながら、支援しております。また食事や入浴等特に希望がない場合は定時にサービスの提供を行っております。一人の時間を大切にしながら、それぞれの方の出来ること、やりたいことを支援するようにしております。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目にはご家族の協力を得ながら、衣替えを行い、また理美容に関しても毎月来られる美容師の方に、ご本人やご家族の希望を伝えて、こだわったおしゃれを楽しんで楽しんでもらえるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器を拭いていただいたり、できる方には一緒に取り組んでいただいております。また普段の食事メニューとは別に季節の食材や行事食の提供を行っており、たこ焼き作りを一緒に行ったり、またテイクアウトで芝寿司を食べたり、食事を楽めるように取り組んでおります。	各フロアにて利用者と職員が話し合い、今出来る行事等を考え行っている。食事やデザートをご利用者と一緒に考えたり、盛り付けや準備を1人ひとりが出来ることを考慮し、一緒に楽しめる機会を提供している。季節感を味わってもらうために、季節感のある映像や音楽を一緒に考えてかけたりと工夫もみられる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に合わせて食事形態を変更し、安全においしく食べていただけるように支援しています。また脱水にならないように1日の水分摂取量を把握し、飲みすぎや少なすぎることがないように支援しています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しております。介助が必要な方には声がけしながら介助をし、各入居者様に合わせた口腔ケアを行っており、自身で行える方に関しては声がけ見守りにて対応させていただいております。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレで排泄できるように、誘導や声がけを行っております。また、声がけはさりげなく自尊心に配慮しております。夜間は入居者様の状態に合わせて個別対応でポータブルトイレを使用してもらったり、パットの大きさを変更して対応させていただいております。	現状として自身で排泄できる方が減少しており、夜間も必要に応じて個々でパットのサイズ変更やポータブルトイレの使用などに対応している。個々の生活リズムを理解し、自尊心に配慮した声掛けを行い支援を行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様ごとに毎日の排便確認を行っており、日々の水分摂取や歩行練習の声がけもしており、自力で便がでず、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っております。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日には決めさせて頂いているが、時間はなるべく本人の希望にそった時間に入浴して頂けるようにしている。また拒否がある場合は、時間や日にちをずらして、出来るだけご本人が入浴を楽しめるように個々の希望を聞きながら行っている。	希望に沿った時間に入浴が行えるように考慮しているが、介助が必要な利用者が多いため日には職員と利用者で話し合い了承を得て決めている。すべての利用者が決まった日時を理解し入浴を行っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはご本人様の過ごしやすいようにして頂いておりますが、昼夜逆転にならないように、日中に声がけし、起床を促したり、短時間のお昼寝をおすすめしたりして、夜間は安眠できるように支援している。また、一人の時間や空間となる居室での時間を大切に、プライバシーを尊重しながら支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は完全に嚥下するまで確認しており、誤薬がないように職員で2重チェックを行っております。新しい薬が処方された場合は申し送りやフロア会議を通して職員間の情報共有を行い、副作用や症状の変化に注意しております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみなど各入居者様のできる能力を生かしていただいたり、洗い物や食器・テーブルを拭いたり、食事前の体操を手伝っていただいたり、それぞれ役割をもって頂いております。現在外出は制限させていただいているので、おやつレクを増やしたり、テイクアウトを楽しまれたりご本人が楽しく、張り合いをもって生活できるように支援しております。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、受診以外の外出は制限させていただいている。そのかわりに、職員が買い物や代行したり、動画で映像をみてもらったり、またテイクアウトを利用させていただいている。	新型コロナウイルス感染予防により病院受診以外の外出は制限をしている。 ご利用者一人ひとりに食べたいものを聞き可能な限り、テイクアウトなどを利用したり、買い物の代行支援も行っている。 お寿司を食べたいと言われる方が多く、芝寿司などの地域性のあるものは喜んで食されている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人で管理したり、使用することができる方に関しては、職員が代行して買い物をし、おつりや使用金額の確認をしていただいています。その他のご本人が管理するのが難しい方に関しては施設でお預かりしたり、ご家族様の管理となっております。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については今のところ、ご本人からの要望がありませんが、職員がご家族にかけた際に、話してもらったり、リモートでお話できる機会をつくるようにしております。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除しており、皆様が過ごしやすいように汚れ・臭い・明るさなどに注意し普段から清潔を保つように努めております。また、社内の環境委員会と協力して整備をしております。その他、感染症対策の為、換気を心掛けており、気持ちよく過ごせるように取り組んでいます。	ご利用者が出来る範囲の消毒は一緒に行うなどと、感染予防を生活の習慣として行っている。食前や食後などこまめな換気も実施している。 また、社内の環境委員会とも協力し、整備を行っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや椅子があり好みの場所を選択し過ごせるようにしているが、皆様座りなれた場所で過ごされることがほとんどで、独りになりたいときは居室に行かれています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、冷暖房設備以外のものは、入居時に使い慣れたご自宅で使用されていたものを持ってきて頂くようにしています。テレビや冷蔵庫、布団・まくらなど皆さんそれぞれなじみのあるものをお持ちいただいております、居心地の良い空間になるように支援しております。	共同フロアだけでなく個人の居室でも過ごされている。 個々でTVや布団、枕など、なじみのあるものを持ち込まれている方も多く、自室でもそれぞれが居心地の良い空間として過ごされている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り、声かけ、見守りでご自分で、できることは継続できるように支援しています、また安全に移動できるようにトイレなどスムーズに行けるように動線を確保し、環境整備を心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	